

平成21年8月1日

第65号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rirya.maff.go.jp/kanto/>



くろふやま

黒斑山から望む浅間山（群馬県吾妻郡嬬恋村）

（撮影者：吾妻森林管理署 杉山 浩史）

美しい森林づくり

森づくり活動や環境教育の推進について

計画部 指導普及課

私の視点

「すいふ恵海の森づくり」に想いをよせて

すいふ恵海の森づくり実行委員長

井上 清一氏



森づくり活動や環境教育の推進について

計画部 指導普及課

つかをご紹介させていただきます。

「森林とのふれあい」や「国民参加の森林づくり」等森林への期待が高まる中、団体や企業等からの森林づくりへの参加要望が増加してきています。しかしながら、その活動の場を民間で確保することは難しい状況となっています。

関東森林管理局では、このような状況を踏まえ、学校、NPO等の多様な要請に応えるため、「ふれあいの森」「ボランティアの森」「遊々の森」といった協定方式による活動支援を行っていますので、このいく



「ふれあいの森」で除伐作業風景

ふれあいの森

NPO等による植栽や下草刈、森林浴、自然観察会等のフィールドとしては、あらかじめ森林づくり活動に適した場所を選定し、その場所での活動を希望される団体等を公募する「ふれあいの森」の設定を進めています。

群馬県高崎市に設定した「ふれあいの森」では、NPO法人フォレストぐんま21が、年4回、定期的に下草刈や除伐を行っており、活動のシンボルとして現地に看板を設置し、活動の目的や森林を大切にすることを呼びかけを行っています。

現在、関東森林管理局管内には、「ふれあいの森」が21箇所、672ヶ所設定されています。

ボランティアの森

地域に密着した森林づくり活動に取り組んでいる団体等が継続的に活動するフィールドとしては、「ボラ

ンティアの森」があります。

サケの遡上で有名な新潟県村上市にある三面川流域をフィールドとする「サケの森林づくり協議会」では、地域の漁業者、林業関係者、住民、緑の少年団が中心となって、豊かな川・海・森林をつくり将来にわたる守るため、ブナを主体とした水源林の刈り出し・整備などを行っています。

「ボランティアの森」については、現在、49団体との間で協定を締結し、846ヶ所が設定されています。



さけの森林づくり

遊々の森

子どもたちの多様な体験活動を支援し、森林環境教育を推進することを目的としたものでは「遊々の森」制度があります。

これは学校等が行う緑化活動、自然観察、自然体験や環境問題の学習に利用できるもので、協定を締結することにより同じ箇所を継続して利用することが出来ます。

高崎市内の小学校ではこの制度を利用して森林教室や間伐・除伐作業の体験活動を通じて森林の働きを知るとともに森林整備が地球温暖化防止に役立つことなどを学んでいます。

関東森林管理局管内ではこのような協定を24団体と締結し、その面積は1,689ヶ所となっています。

ボランティアで森林整備活動をしたい、自然体験などの森林環境教育を実施したいという場合は、最寄の森林管理署等にお問い合わせ下さい。



「遊々の森」で森林教室



ムタコ沢濁度調査の様子

ムタコ沢の水源かん養機能について
赤谷プロジェクト地域協議会では、「赤谷の森」のムタコ沢にちなんで「ムタコの日」を設け、この地域に住んでいる方々に周囲の森林の大切さや水源かん養機能等を理解していただけるような活動に取り組んでいます。

今年度からは、従来の取り組みに加え、降雨前後のムタコ沢の濁度や簡単な器具を使用した森林土壌の水の浸透機能について調査し、科学的な視点から森林の水源かん養機能に



ついて紹介していくことになりました。

その調査ポイント選定のため、6月にセンター職員及び自然環境モニタリング会議委員が新緑の森林と清冽な流れのムタコ沢で予備調査を行いました。

今後ムタコ沢の素晴らしさを伝えるため、様々な取り組みを進めていきます。

高校生への森林環境教育
毎年、利根実業高校1年生約80名を対象として、2年生進級時のコース選択の参考となるよう、20名ずつ4回に分け、赤谷プロジェクトの取り組みについて解説し、生物多様性復元に向けた活動を紹介しています。今年度は、既に3回実施済みであり、



猛禽類の見分け方を解説する職員

植生管理の指針づくり
6月30日(火)に平成21年度第1回植生管理ワーキンググループの会合が開かれました。

赤谷プロジェクトでは、人工林を自然林に戻していくために必要な植生管理の指針づくりを進めており、目標とする自然林のタイプとして

あと一回は9月に予定しています。

当日は、「いきもの村」で猛禽類の観察などを行いました。この日初めて双眼鏡や望遠鏡を手にする生徒も多く、野鳥が飛ぶたびに歓声が上がっていました。

これをきっかけとして、多くの生徒が自然環境に関心をもち、森林科学コースを選択してくれることを願っています。



猛禽類の観察実習

「ブナ・ミズナラを主体とする森林」「クリ・コナラを主体とする森林」「溪畔林」の3種類を想定し、それぞれのモニタリング試験地の設定、森林施業との調整、さらに、人工林として継続すべき箇所を標高や林道からの距離などの一定の基準値により判断していくことが検討されました。

また、「赤谷の森」の植生管理において、地域の意見を反映させていくため、平成23年度からの次期「地域管理経営計画」等へ地域の意見を反映していく仕組みや手法などについても、活発な議論が交わされました。



「赤谷の森」の森づくりについて議論



開会式で挨拶する筆者

森づくりに対する関心が高まる今日、山を守り育て、自然を生かしながら小さな山あいの集落が一体となつて取り組む森づくり、それは、針葉樹(スギ・ヒノキ)の植栽ではなく、広葉樹(花木類)を主に植栽し、「花の山づくり」として、未来に夢を描きつつ集落住民が主体となり頑張っているところであります。

先ずこの場所について紹介します。茨城県北部の太子町と常陸太田市最北端の町村界に位置する男体山(海拔653.8m)の麓にある現在13戸の持方集落は、かつて畜産振興の旗印のもと、黒毛和牛の生産で生活しようと、国有林野を借受け27

私の視点

「すいふ恵海の森づくり」に想いをよせて

すいふ恵海の森づくり実行委員長

井上 清一



作業に参加するボランティアの皆さん

鈴の牧野を造成し、放牧地と採草地を作りました。

しかし、現在は、集落として広い牧草地全てを維持管理するのは困難となり、跡地利用をどのようにしたらよいか、集落のみなさんが検討を重ね、各地の「花の山」等の視察をして、牧草地の一部12鈴に山桜、コブシ、シラカバ、山ツツジ、八重桜等を混植しました。

幸い、この山奥の地にも男体山へのハイキングコースや奥久慈グリー



恵海の森での作業風景

ンラインが計画され、舗装された観光道路が整備されつつあります。

将来多くの市民の皆さんが、森林での健康増進を兼ねて訪れ、山一面に咲き誇る「花の山」を楽しんでいただけるの思いを馳せて、現在、森林ボランティアの皆さんや、林業関係のみなさんが年2回の下草刈に参加しております。下草刈には刈払い機を持参する方、用意した大鎌で作業される方など、植栽後5年が経っています。毎年皆さんは楽しみに参加し、心地よい汗を流しています。

山では、作業後の昼食が参加者の皆さんの楽しみの一つでもあります。日本のふるさと百選に選ばれた記念碑の前の小さな広場に集まり、地元集落のおかあさん達の真心こめて作った、地元で採れた山菜(ワラビなど)の煮物、てんぷら、刺身こんに

にやく、霜降りカボチャ、日立市久慈浜漁港の皆さんから届いた魚の炭火焼などで、にぎやかな昼食会になりました。

多くの皆さんが、森林づくりを理解していただき、参加して下さる事に感謝しております。

この自然環境の中での活動が、やがて見事な「花の山」となり男体山のハイキングコースと相まって、奥久慈の名所になり、心の安らぎを求めて訪れる人たちが多くなることを信じております。

この場所は、近くに竜神大吊橋があり、竜神峡ダムの水源地となっており、久慈川から太平洋につながっています。河口付近の久慈漁港と連携、協力して、今後も、「豊かな森林づくり」、「豊かな海づくり」を進めて参ります。



作業風景(下刈作業)

森林官からのあたり

日光森林管理署 川治森林事務所 森林官 櫻井 崇裕

川治森林事務所は、栃木県の北部に位置する日光市（旧藤原町）に所在し、鬼怒川上流の森林約5,700haを管轄しています。

「川治」は、会津西街道の宿場町として栄えた歴史があり、江戸時代から続く川治温泉は、山あいの風情ある温泉として親しまれています。

管内には、日本橋から五十里の地点ということが由来とされる五十里ダムや川治ダムがあって、首都圏への水や電力供給源となっており、周辺の国有林はこのようなダムや河川に安定した水量を供給する重要な役割を担っています。



景観整備箇所から日光連山を遠望



紅葉時の「日塩もみじライン」

また、紅葉の名所として有名な「日塩もみじライン」沿線はスキーや登山の対象として、四季を通じて多くの人々に利用されています。「日塩もみじライン」は、昭和47年に開通し、日光市と那須塩原市を結ぶ道路沿線には、彩りを添える各種のモミジが植栽されました。

しかしながら、40年近くを経過し、繁茂する樹木によって眺望が妨げられる状況になったため、平成12年から14年にかけて、当時の藤原町、県道路公社及び当署で協議会を設置し、学識経験者の意見を聞いたうえで景観を確保する森林整備を実施しました。この結果、7年を経過した現在も、日光連山を一望する眺望は確保されています。今後は、沿線のモミジに陽光を多く当て、色づきを良好にするための検討も必要ではないかと考えています。

かつてこの道路沿線には4箇所のスキー場が営業していましたが、利用者の減少に伴い2箇所が閉鎖されました。現在、スキー場閉鎖から8年を経過し、ゲレンデの跡には、周辺のカラマツ人工林から飛散した種子が発芽し、2～3mにも育った箇所が広範囲に見られます。その一方、豪雨によってゲレンデ箇所が洗掘され、表土が流出する状況も発生していました。

このため、昨年10月、ボランティアの参加を得て現地の転石を活用した水路を作成し、流水を下流に安全に流す工事を試みました。

当日は、土木作業の経験者約40名に参加いただき、重機も利用して、水路の整備、土砂流出防止の木柵設置を行いました。施工地の下部は、豪雨の際の表土の流出が抑えられることで、周辺に生育しているススキやカラマツによる緑化が期待できます。

ボランティアの力や自然の再生力を活用した、森林再生のモデルとなることを期待して、定点写真を撮りながら、経過を観察しているところです。

日光市は、世界遺産となっている東照宮を始めとする二社一寺や奥日光で有名ですが、川治管内にも特色ある豊かな森林が広がっています。

地域の自治体、関係機関及びボランティアと連携して、これらの素材を生かし、地域の活性化に少しでも役立つように取り組んでいきたいと考えています。



ボランティアによる木柵・水路設置

管内の百名山「浅間山」



北軽井沢から望む春の浅間山



北軽井沢から望む冬の浅間山

浅間山は、登れない百名山となっており、車坂峠から登る外輪山の最高峰、黒斑山（2,404m）の登頂をもって、浅間山登頂とするのが一般的です。

この黒斑山へは、中コースと表コースがあります。なかでも中コースは、天然カラマツの巨木林の中を通るのでお勧めです。長年の風雪に耐えた独特の樹形を見せるこの天然カラマツ林は、当署が黒斑山天然カラマツ植物群落保護林として保護しているものです。

美しい自然を有する一方、世界有数の活火山でもある浅間山は、古来より日本人が感じてきたであろう自然への畏敬の念を再認識させてくれる山です。

（吾妻森林管理署広報広聴連絡官）

「長閑さや浅間のけふり昼の月」（一茶）この小林一茶の歌のように一見穏やかに見える浅間山（2,568m）は、群馬県の嬭恋村、長野県の軽井沢町と御代田町の境にそびえ、現実には気象庁の火山活動度分類でランクAに指定されている活火山で、噴火すると首都圏をはじめ関東一円に甚大な被害を与えるため、日本の火山の中でも特に注意深く監視されています。

記録に残る噴火で最も被害の激しかったのは、天明3年（1783年）の大噴火で、死者1,500人以上、倒壊家屋1,000棟以上となる大災害でした。観光地として有名な鬼押出は、この時の溶岩流の名残です。

浅間山は、現在、噴火警戒レベル2に指定されており、火口周辺への立ち入りが規制されています。今年の2月、3月には噴火活動が観察され、レベル3に引き上げられたこともありました。このような現状から吾妻森林管理署は「浅間山火山防災対策連絡会議」等の構成機関として関係省庁、自治体等と協力し防災対策に参画しています。



黒斑山の天然カラマツ

参加者募集

高尾山の自然の中で、染め物に使われてきた植物の観察と草木染めを楽しみませんか？

実施日 平成21年9月12日（土）
実施場所 高尾山国有林

参加定員 30名（応募者多数の場合は抽選）
申込先： 高尾森林センター
〒193-0844 八王子市高尾町

電話番号 042-(663)6689
申込方法 往復ハガキで、参加者全員の住所・氏名・年齢・学年・電話番号を記入し応募して下さい。

申込締切 平成21年8月27日（木）
<http://homepage3.nifty.com/takaosc/>



発行所 関東森林管理局
編集 総務課
FAX (027) 210-1159
TEL (027) 210-1158